

# サバァイ通信

2009. 5. 25 (月)

第 7 号

宍戸 良子

## ★私の家の庭！

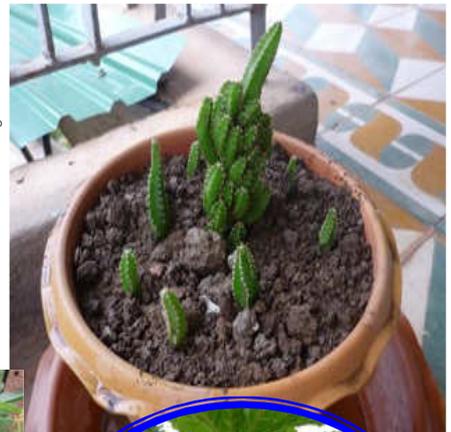
私の家は、大家さんの家の2階にあります。ちょうど、大家さんが鉢の植え替えをしていたので、見ていたら、「りょうこも2階で育ててみる？」と誘ってくれて、3つの植物を2階のベランダに置いています。一つは、右下の写真のような花が咲く予定です。

2つ目は、日本でも見かける植物。オリズラン？でしょうか。みるみるうちに大きくなってきました。



3つ目は、大家さんが親戚の家から採ってきたという、「サボテン」。植え方が面白いですね。

それから、庭の花をいろいろと撮ってみました。



日本では見かけないようなトカゲもいました。

# サバリー通信

2009. 6. 1 (月)

第 8 号

央戸 良子

## ★6月1日子どもの日のイベントに向けて！

カウンターパートに「子ども達の学習の成果を発表できる機会がないものか？」と相談したところ、6月1日に子どものためのイベントがあるから、そこで発表することになった。それが決まったのは、2月のこと。私は、ボランティアとしてこの小学校に派遣されるのは3代目だが、今まで、そういう発表はしたことがないという。カウンターパートも楽しそうだねと好感を示してくれていた。冗談で「良くなかったら、叩くよ！」とも激励してくれていた。

しかしながら、全校生徒 3000 人以上の学校。5・6年全クラスが発表すると 26 クラスになってしまう。メインの行事があるため、5年2クラス、6年2クラスの発表ということも2月に決まっていた。

人前で発表したり演奏したりする機会がほとんどない子ども達。6月1日の発表を心待ちにしているようだ。その日が近づくに連れて、子どもの動きもいつになく、素早く真剣であったりして、いい発表が出来るようにという気持ちが子ども達の態度からひしひしと伝わってくる。

図工の時間に作った「アンコールワット」や「星」の切り紙のかぶりものを作った。それを頭につけてピアノカやリコーダーを演奏するのが、とても嬉しいよう



6年生のアルトリコーダーを使って演奏するクラス。

今日は職員会議のため、授業がなかったにも関わらず、みんなが学校へ集まった。日差しが強いので、隣接している幼稚園の屋根の下で歌の練習をした時の様子だ。

子ども達の目標に向かって一生懸命になれる雰囲気は担任が引き出していくのがよく分かった。

休みの日まで……。先生も子どももやる気満々！

## ★いよいよ当日

当日は、行事が朝7時30分から始まるということだったので、子ども達は楽器やリボンの準備のため6時半に学校へ来ていた。

……。ところが7時半になっても行事が始まらない。7時半の時点で来賓客が一人も来ていなかったのだ。8時前ようやく揃い、行事が始まったが、そのときには、涼しかった日陰がだいぶなくなり、子ども達は、暑い中仕方なく話が終わるのを待つか、自分だけでも日陰に行こうとざわざわしているかのどちらかだった。

発表者達はどうだったかという、さすが、担任の先生の言うことをきちんと聞いて、暑い中でもあらかじめ用意していた新聞や日差しを避けられそうなものを工夫して場所を動かないで待っていた。

その姿に私は感心した。



幼稚園児も発表。  
3日前に伴奏を頼まれ、私もあたふた・・・(笑)。

緊張していて、テンポがどんどん速くなってしま  
ったけど、みんなよく頑張ったね。



結果はともかく、この日まで、一生懸命、よく練習についてきたなあと嬉しかった。最初は、ソプラノリコーダーの本数が足りなくてアルトリコーダーを使うことにしたが、大きすぎて難しいかな・・・と思っていたけど、やればみんなできるのだ。中には、わざわざ、私の家にまで来て、「まだできないから教えてくれ」という子どもまでいた。一生懸命何かに取り組むことの楽しさを一緒に味わうことができた子どもの日だった。

# サバリー通信

2009. 7. 22 (水)

第 9 号

宍戸 良子

## ★地雷って知っていますか？

地雷(じらい)とは、地面に埋められた爆弾のことで、人間用のものと戦車用のものとあります。戦争の武器としてカンボジアでたくさん使われていました…。

## ★地雷撤去の現場見学へ

朝 8 時にピックアップしてもらって、バタンバンを中心地から 1 時間半くらいの所へ、地雷撤去の現場を見学しに行きました。

バタンバン州には、地雷がまだたくさん残っているそうです。普段は、安全な町に住んでいるので他の地域のことは分かりません。でも実際にはどうなっているのか知りたくて、地雷除去に携わっている日本人の方に案内してもらって見学に行くことになったのです。今回行った地方は、手付かずの土地がたくさん残っている地方でした。

道から一步外れると地雷があるかもしれないので、案内人のクメール人の後を慎重に歩きました。

日本でも有名な KOMATSU という会社が地雷処理機を開発してカンボジアにも送っています。

その地雷処理機も見ることができました。(右の写真)



そして、地雷処理機の近くで除去された後の、既に安全が確認された土地に種を撒く農民がいました。カンボジアの農民が安心して農業に取り組めるので、日本の地雷除去の支援は、とても有意義な支援だと思いました。

それにしても何十年もかかっても撤去できない地雷を誰が考えたのかと、さかのぼって考えてみると、人間が作ったものなのですね。それがとても残念です。

地雷があるところのマークです。  
このマークの所には絶対に行ってはいけません！



## ★地雷に囲まれた学校・・・

地雷は、地表すれすれに設置されていることが多いようですが、20年も経つと、雨などで地面が緩み地中へもぐってしまうこともあります。地雷の素材はプラスチックなので、劣化もほとんどしません。しかし、その地雷が実際に爆発するのかどうかは、見てみないと分からないそうです。

そんな地雷の埋まっているかもしれない地雷原の中に学校がありました。柵の向こうは、地雷原です。

KOMATSU の日本人がぼろぼろの学校を見つけて、せめて学校の敷地だけでも安全だと分かるようにと校舎を建てたそうです。今年できたばかりの綺麗な校舎でした。

1～3年生が一生懸命勉強していました。一生懸命勉強する姿は、どこの国も一緒ですね。



**井戸もありました！**

## ★壁のない学校・・・

さらに奥へ15kmくらい車を走らせると、もう一つの学校がありました。

ここは、現地の案内人がいないと行くことすら難しいところでした。しかも、途中で大きな水溜りができていて通れない状態になっていたため、案内してくれた小学校の校長先生が草むらの中(もちろん、安全とは言い切れない)の迂回路を案内してくれました。最終的には、車を乗り入れるのをあきらめ、歩いて学校へ向かいました。



二つの教室がありました。学校と言わなければ、小屋です。この学校のすぐ外も同じく地雷原です。柵すらありませんでした。私はこれらの学校を見てから、彼らの学校のことが頭から離れません・・・。

# ザバーイ通信

2009. 8. 18 (火)

第 10 号

宍戸 良子

## ★雨季休みを利用して…

雨季休みですが、毎日学校へ行っています。

普段、呼ばれている名前から「シシースクール」と名づけました。

7 時～ 縄跳び

8 時半～ ピアニカ教室

9 時～ リコーダー教室

9 時半～ 日本語教室 1

午後 3 時～日本語教室 2



朝 7 時からクラスによって担任の先生が授業をするので、ほとんどいませんが、30 分くらいで終わって子ども達が出てくるので、そのときに縄跳びの練習をしています。

ピアノカとリコーダーは各 30 分間。

毎日出欠表をつけていて、出欠状況をチェックしています。

子ども達の成長が楽しみです。

日本語教室は、午前は子どもが中心。

午後は、先生も来ていて、少しレベルが高いです。

校長先生は、毎日少しずつ、様子を見に来てくれています。

近所の子と縄跳びをしったりしていました。子どもと触れ合おうとする優しさを感じます。

思っていたよりも日本語を勉強したいという子どもが多いことに驚きました。

参加している子どもも大人も勉強熱心で、日本語教室は 1 時間があっという間に終わってしまいます。

雨季休みが終わっても続けていけたら、いいなと密かに考えています。

校長先生と一緒に縄跳び跳んでみるか？



毎日、来たよ。  
ピアノカは楽しい！

「茶色のこびん」が吹けるようになったよ。

せっかくの休みだから、先生も自分のために勉強したいわ！

## ★私の自転車

私の自転車は、2ヶ月くらい前まで普通の自転車でした。

しかし、ある日、自転車やさんで荷台のところにもう一つサドルを付けることができると思いました。早速つけました。

なぜなら、隣の家の姉妹を学校から乗せて帰ることが夏休みに入って多くなったからです。

お値段、なんと約 175 円でつけることができました。



この姉妹の両親はシェムリアップに働きに出ているので、おじいさんおばあさんと店の従業員達と生活しています。この家の小学1年生と幼稚園生の2人が私の活動先へ通っています。

店が忙しくない時には、従業員が交代で学校に姉妹を迎えに来るのですが、店が忙しい時には、姉妹は私の活動が終わるのを待っていて、私の自転車で一緒に帰ります。ちっちゃな手で私にへばりついて乗っています。

一つのサドルに2人とも乗って帰ることもあります。小さいので二人乗っても軽いんです。

**カンボジアでは、近所の子どもと一緒に連れて帰るのは極当たり前です。近所の人との助け合ったり、励ましあったりする雰囲気強く、係わり合いが深いことを感じます。**

## ★どろぼうの道具



私の住むバタンバンで隊員の家に泥棒が入りました。

そこで、泥棒が残していった道具を見せてもらいました。

おたまと棒キレを自転車のタイヤのようなゴムでグルグルに巻いたもの、と同じようにスプーンの先を折り曲げてグルグルに巻いたもの。

泥棒が盗っていったのは、パソコンでし

どうやら犯行は夜らしく、朝起きたら窓とカーテンが開いていたそうです。

パソコンには、テーブルの脚とパソコンをつなぐ防犯ワイヤーがついていました。切ろうとした跡はあったけど切れていなかったそのワイヤーは、ベランダに落ちていたそうです。

盗られる時には、何をしても盗られるのだな〜と、その人と一緒に思わず感心してしまいました。

とにかく、その隊員が泥棒とばったり出くわして怪我をしなかったのがせめてもの救いだと思いました。もし、出会っていたら・・・と考えるとぞっとします。私も気をつけなくては、と思うべきごとでした。

しかし、この道具を使って鉄格子のある窓から、ワイヤーでつないであったパソコンをどうやって持

# サバライ通信

2009. 9. 16 (水)

第 11 号

宍戸 良子

## ♪ワークショップ in バッタバン♪

9月8日～16日までの9日間、我が任地バタンバン州で音楽に関するワークショップの講師をしてきた。主催している団体は「JHP=」スタッフは、長い時間をかけて学校区を選び出し、校長を集めてミーティングを開き、150人の先生や教員養成校で勉強中の先生候補を選んだ。苦勞して準備してきたワークショップで、とても熱が入っている。

9日間で60時間の講習。なぜ60時間かと言うと、カンボジアの教員養成校で1年間に組まれている音楽の時間58時間を基準にしてあるからだ。

メインはリコーダー。

なぜリコーダーかと言うと、カンボジアにも売ってあるからである。

日本から送られたピアノカで教えると言う方法もあるけれども、ピアノカはカンボジアでほとんど売られておらず、単価も高いのでほしいと思っても実際には手に入りにくい。対象は小中学校の先生150人、講師は5人。5人のうち、私以外はクメール人だった。

前日は丸まる講義内容の確認ミーティング。

私は、1年間近く、小学校で教えてきたことを踏まえて、こうしたらよかったとか、これは失敗だったとか、体験を交えて指導方法を先生達に伝えて来たいと思いつつ、カンボジアで長年指導してきた先生達を相手に講義ができるのだろうか、前日は眠れなかった。

## ♪始まってみると♪

普段、子どもに教えていくのと変わらないことが分かった。

小学校の指導で使っていた資料や歌詞の模造紙も持ってきて説明する。クメール語でなんと説明するのか、なんと呼ぶのか、私は毎日その予習に追われていたが、受講した先生達も一生懸命取り組んでいたの、準備は大変だったが、とてもやりがいのあるものだった。

休憩時には一緒におやつを食べ、世間話をし、雰囲気を変えて外へ飛び出して歌練習を



## ♪思ったこと♪

音楽の記号や音符の読み方、指揮の方法を先生達が出来ようになったならば、とても大きな意義をも

ったワークショップである。

それは、今は分からない。これから始まる新学期の先生達の指導によって見えてくるものなのだと思う。

9日間という短期間で一緒に学んだカンボジアの歌は、15曲くらい。

(配布された教科書には32曲載っていたけど、時間が足りなかった・・・)

リコーダー曲は、外国の簡単なものも合わせて5曲・・・。

初めてリコーダーをする人達にはかなり過酷なワークショップであったと思う。

でも、毎日毎日指を忘れたといいながらも休憩時間や朝早く来てできるまで練習している先生の姿も



教室はタイル張りで、気がついたら裸足になって指導していた。

なんせ、裸足は、タイルの冷たさが気持ちいいし、動き易い。

中には私の持ってきていた資料を毎日持って帰り、書き写して翌日返してくれるという熱心な先生もいた。

列ごとにチェック！

立ったり座ったりして、眠気を吹き飛ばそう・・・という作戦。

しかもできるまで何度もするので、先生達も必死！



毎日毎日、新しいことを詰め込み、吹いたことのないリコーダーを吹きたいと寸暇を惜しんで練習していた先生達の努力が見えた。とても充実した9日間だった。

ここで出会った先生達の今後の活躍がとても楽しみである。



# サバァイ通信

2009. 10. 12  
第 12 号  
宍戸 良子

## ★KOICA隊員との交流！

日本の青年海外協力隊と同じように途上国への技術移転の支援をしている韓国の青年海外協力隊。

その韓国から来た協力隊員の家に招待された。我々を「JOCV（青年海外協力隊）」、というのに対し、「Senior Volunteer（シニアボランティア、以後SV）」という熟練者の協力隊もあり、韓国でも同じようにSVが派遣されている。



この日（10月11日）は、その韓国のSVの方の家へ行くことになったのだ。

同じように途上国で自分のできることがあるなら力になりたいと思ってきている人達。

志を同じくして来ているという点で、とても親近感が湧いた。

会話では、お互いの共通語である「クメール語」を使用。彼らの使うクメール語の方が現地の人よりも聞き取り易い（笑）。なんとも不思議な感じではあるけれど・・・。

バッタンバンには現在協力隊とSVあわせて6人いるそうだ。日本の隊員と同じようなものだ。

どんな職種で来ているか聞いてみると、教育省に派遣、大学で韓国語教師（2人）、職業訓練校で散髪技術の指導、家畜の飼育指導などである。

先日知った韓国で作られた歌「君は愛されるために生まれた」という曲を一緒に歌ったり、日本と韓国のアイドルについて話したり、いろいろと盛り上がった。



今日のメニューは、豚肉の焼肉と生野菜、キムチなどなど。

肉は七輪で焼いてあり、レタスや、白菜などの生野菜にキムチや辛い味噌を包んでいただいた。

今日の肉は豚なので「プルコギ」ではないらしい。※プルコギは牛肉のことを言うらしい。

キムチは自分で漬けたそうだ。

最後に余ったキムチでチヂミを作ってくれた。

## ★クリスマスや文通、カレーパーティも！

現在2010年3月までにも、クリスマスには一緒に焼肉を食べに行ったり、ハングルを習っている私の日本にいる母親との文通交流をしてくれたりしている。私の休みの日には配属先に遊びに行くこともある。



クリスマス前に届いた母からの年賀状。  
大家さん宛と、KOICA 隊員宛のものがあつた。

年末年始は、きっと出かけたりするだろうと思  
い、一足先に年賀状を届けることにした。  
韓国には、こういった風習がないのか、KOI  
CA隊員のミョンリンとウニは、とても喜んで  
くれた。

カレーパーティは、私の家へ帰国の近い日本の  
SVと、音楽を勉強したいというクメール人の  
男性も呼んで日本のカレーを食べてもらった。



韓国と日本は近いから、知っている日本  
語もたくさんあるよ～。  
日本のカレーも美味しかったよ～。

初めて、ニャックルーシーの家に来ました。初め  
て食べた日本食も食べられました。By ポッティア



もうすぐ帰国します！  
BTB は、いいところだっ  
たなあ～。By T 田



この日の最後は、日本の浴衣を着てもらっ  
て記念撮影しました。

男性の無かったので、残念でしたが。  
今度は、チマチョゴリを着させてくださ～  
い！！！！

これからもヨロシクね～！！

<気まぐれに一句>

- ・海を越え 志とにもする 仲間かな
- ・クメール語 これが我等の 共通語



# サバァイ通信

2009. 10. 20  
第 12 号  
宍戸 良子

## ★孤児院へ遊びに行こう！

先輩の大津隊員（PC インストラクター）に誘われて孤児院へ遊びに行くことになった。この孤児院、名称は「SKO 孤児院」といって、18 歳までの子どもが 24 人生活している。18 歳になると自分で新しい生活の場所を探して出て行かなくてはならない。その孤児院を作った人は日本人でバツタンバンの町で交通事故に遭い亡くなっている。事故現場は私の家のすぐ近くの交差点……。この孤児院には故人を偲んで写真も飾ってある。この孤児院の近所にある J m a s 職員も誘って孤児院で子ども達と遊んだ日のこと。



あっち向いてホイ！をして遊ぶ少年。  
あっち向いてホイ！という言葉がはっきり言えるのがすごい。とっても楽しそうにずっとしていた……。 (笑)  
周りの子ども遊びに見入っている。

わあああ……。



コラコラ～！  
何がどうなっているんだあ！？



## ★カンボジアの遊びを教わる。

そんな彼等を横目に私も女の子達と遊ぶ。日本でいうと「トントントン 何の音？」という遊びにちょっと似た遊びで、鬼「遊んでくださ～い」  
その他の子「遊びませ～ん」から始まる。最後は、鬼役が誰かを捕まえるという遊び。私も傍で見ている子に台詞を聞きながら参加。なかなか楽しかった。

小さい子がやりたがる時  
年上の子が上手にあやして遊んであげる姿がいいなあ。  
この施設に生活している子はみんな兄弟なのだと再確認するとともに自分が忘れかけていた人との関わり方を思い出したような気がした。



え？  
次は、何って言うの～？

ジシー、早く～！

## ★全員で遊ぶ！

それから、2チームに分かれ、目隠しをされた人が相手チームの誰が自分にタッチしたか当てるとい遊びをした。もちろん、本名を呼んではばれてしまうので、花の名前とか果物の名前などの一時的なあだ名をつける。

自分にタッチした人が当たらなかったら相手チームに吸収され、最後の一人になるまで遊び続ける・・・。

知らない遊びを教えてもらえてまたカンボジアのことを好きになった。



## ★遊んでいる子どもの陰で・・・。

子ども達が遊んでいる間に、この孤児院の職員が、お昼ご飯の支度をしていた。

バンチャエウと言う、黄色の皮にもやしや豚肉をいためた物を包んで甘いタレで食べるものだ。陰で支えてくれる人があるからこそ、子ども達は、こんなに素直で明るく生活していけるのだな。



## ★優しくたくましい子に育ててほしい・・・

カンボジアには孤児院がとても多い。

もちろん、孤児院は「家」なので、子ども達は学校には通っている。

大人になったら、みんな何をして生きていくのだろうか。

そして、それぞれの孤児院にドナーがいて、外国人であることが多い。そのため、経済援助をされなくなって経営難に陥る孤児院もあるそうだ。

両親がいなくてもたくましく助け合いながら生きている子ども達の姿に感心しながら帰った。



## ★おまけ

このSKO孤児院には、時間があるときに遊びに行くようになった。  
12月には、折り紙でサンタクロースを作り、それぞれの名前を書いた。



会うたびにだんだん大きくなっている彼等の姿に毎回勇気や元気や優しい気持ちをもらって帰ってきている私。

隊員として、カンボジアを助けに来ているはずなのに、むしろ精神的には助けられているような気がする今日この頃・・・。





ありがとう！  
また遊びに行  
くからね！

# サバァイ通信

2009. 11. 05  
第 14 号  
宍戸 良子

## ★何を作っているでしょう!?

右のおばちゃん、何を作っているのでしょうか?

セメント?

正解は・・・

正解は「かりんとう」でした。

日本で売ってある黒いやつほど甘くはない。  
混ぜているのは、米の粉と水と砂糖とココナツ  
ツ・・・。

混ぜさせてもらったら、結構重かった。



揚げるときつね色。  
揚げたてをいただきました。



袋に入れて自転車で売りに行ったり、車に積んで小売店まで届けに行くとのこと。  
私の家の近くではあまり売っていないかりんとうなので、お土産に一袋もらって、とても嬉しかった。わ〜い!

## ★ビニールの封は、アイロンで!

これは、アイロンで、中には炭が入っている。  
この熱でビニールの袋の端を密封するのだ。  
電気じゃないけど、コードレス!! 初めて見たよ。

ちなみにこのかりんとうの家。今回連れて行ってくれた私のお友達の旦那さんの実家。

とても気が利くいい人だが、ゲリラ的に呼びに来て、私を強制連行していく。

まあ、日本のように残業もない、休日に部活指導などのないカンボジアの生活ならではの、生活スタイル・・・。

せめて、10分前くらいにでも、「今からいくよ」って言うてくれたらなあ・・・と思うのだった。



かりんとう作りの現場。



このアイロンにビニールをつけると溶けるので、封ができるという仕組み。

<完>